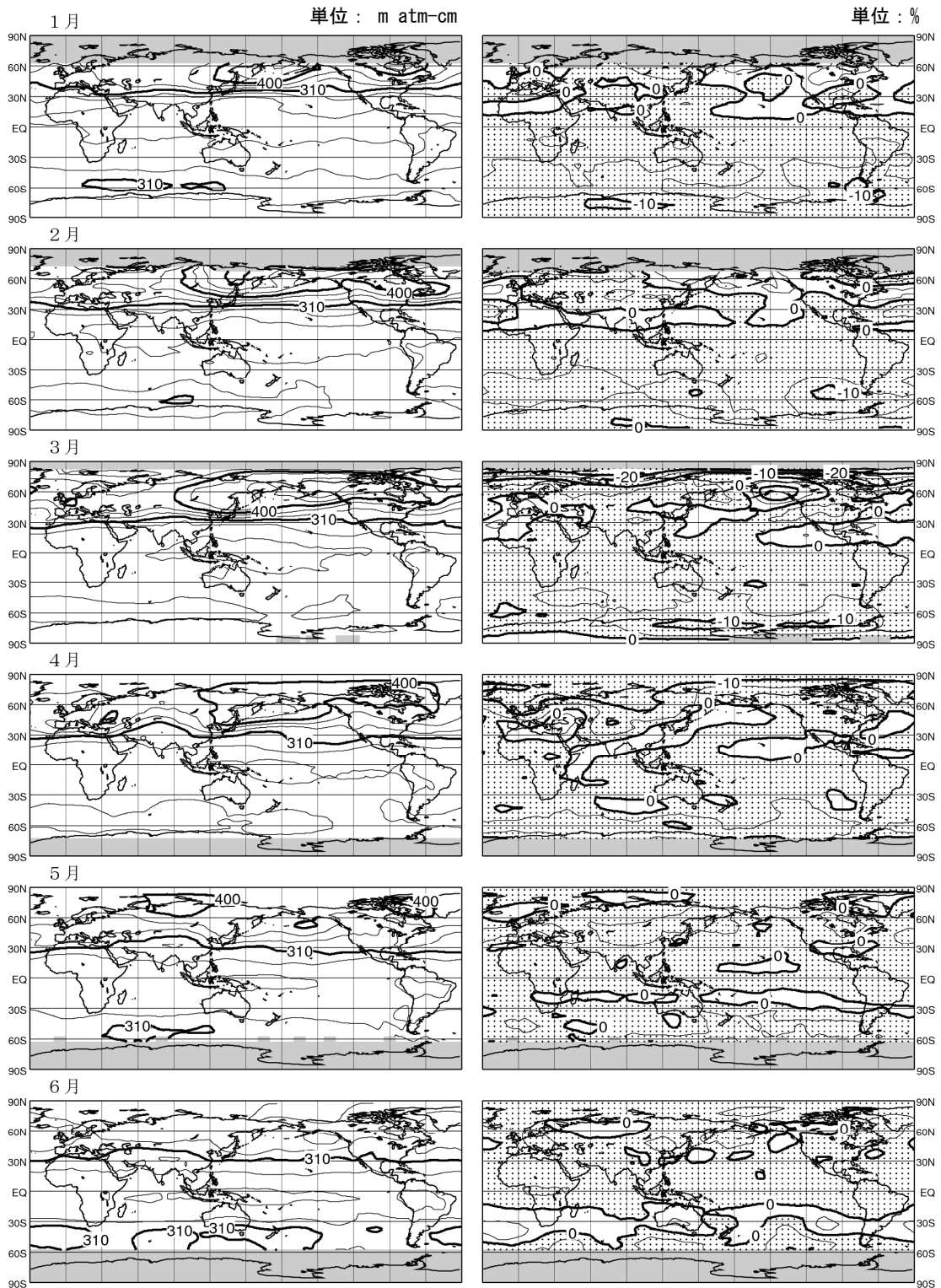


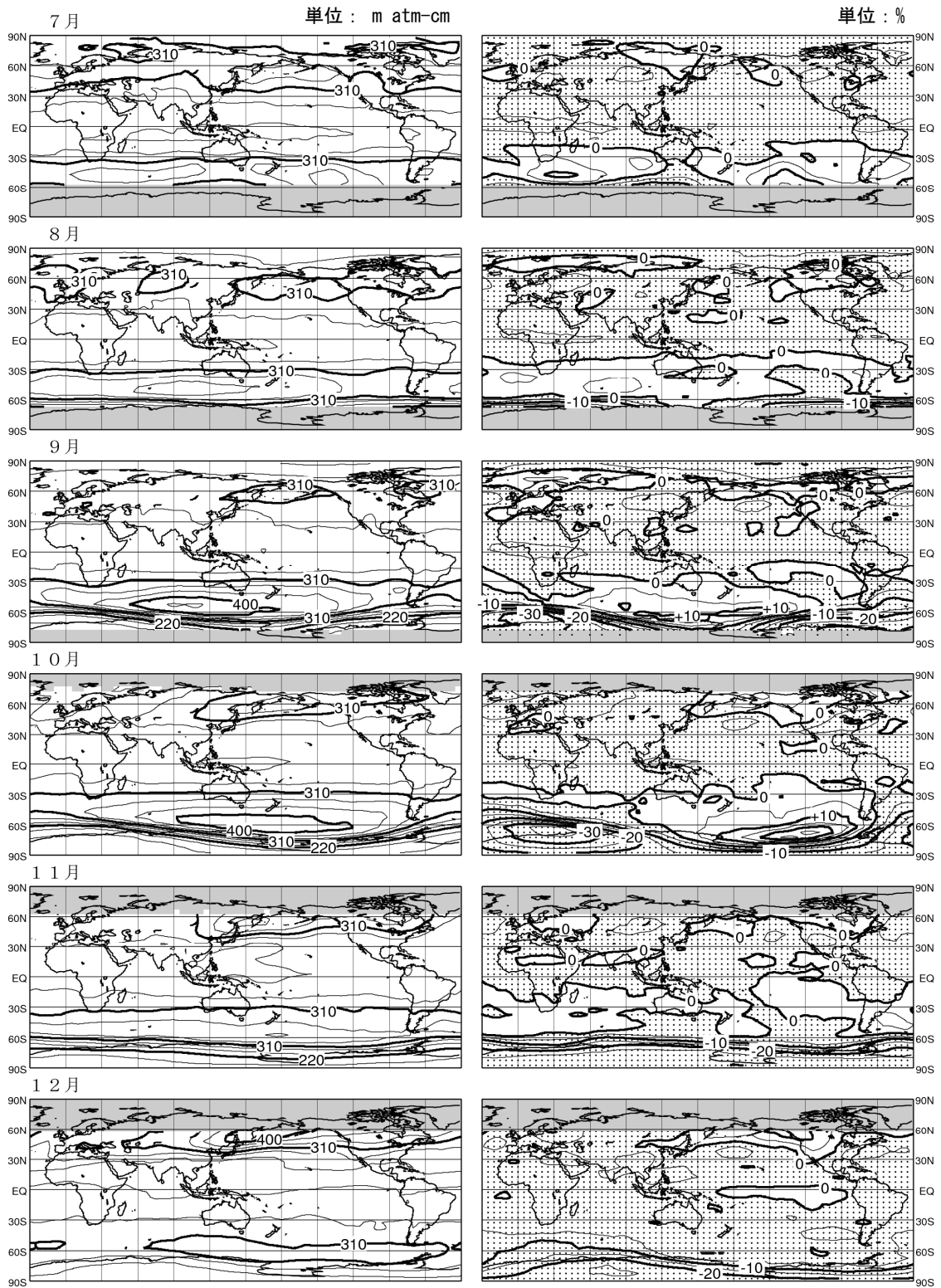
資料

資料1 月平均オゾン全量・比偏差 全球分布図 (2007年)



資料1(1)：月平均オゾン全量・比偏差の全球分布図 (2007年1-6月)

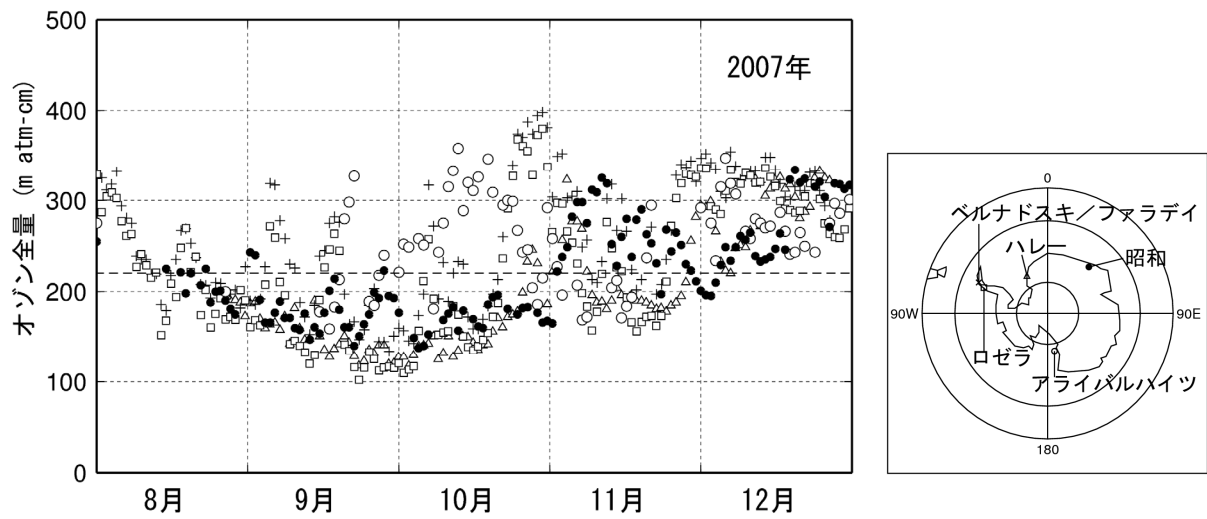
等値線間隔は、月平均オゾン全量 (左列) については30m atm-cm、比偏差 (右列) については5%。陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。点域は参照値より少ない領域。NASA提供のOMIデータをもとに気象庁で作成。



資料 1 (2) : 月平均オゾン全量・比偏差の全球分布図 (2007年7-12月)

等値線間隔は、月平均オゾン全量 (左列) については30m atm-cm、比偏差 (右列) については5%。陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。点域は参照値より少ない領域。NASA提供のOMIデータをもとに気象庁で作成。

資料2 南極各国基地におけるオゾン全量推移 (2007年)

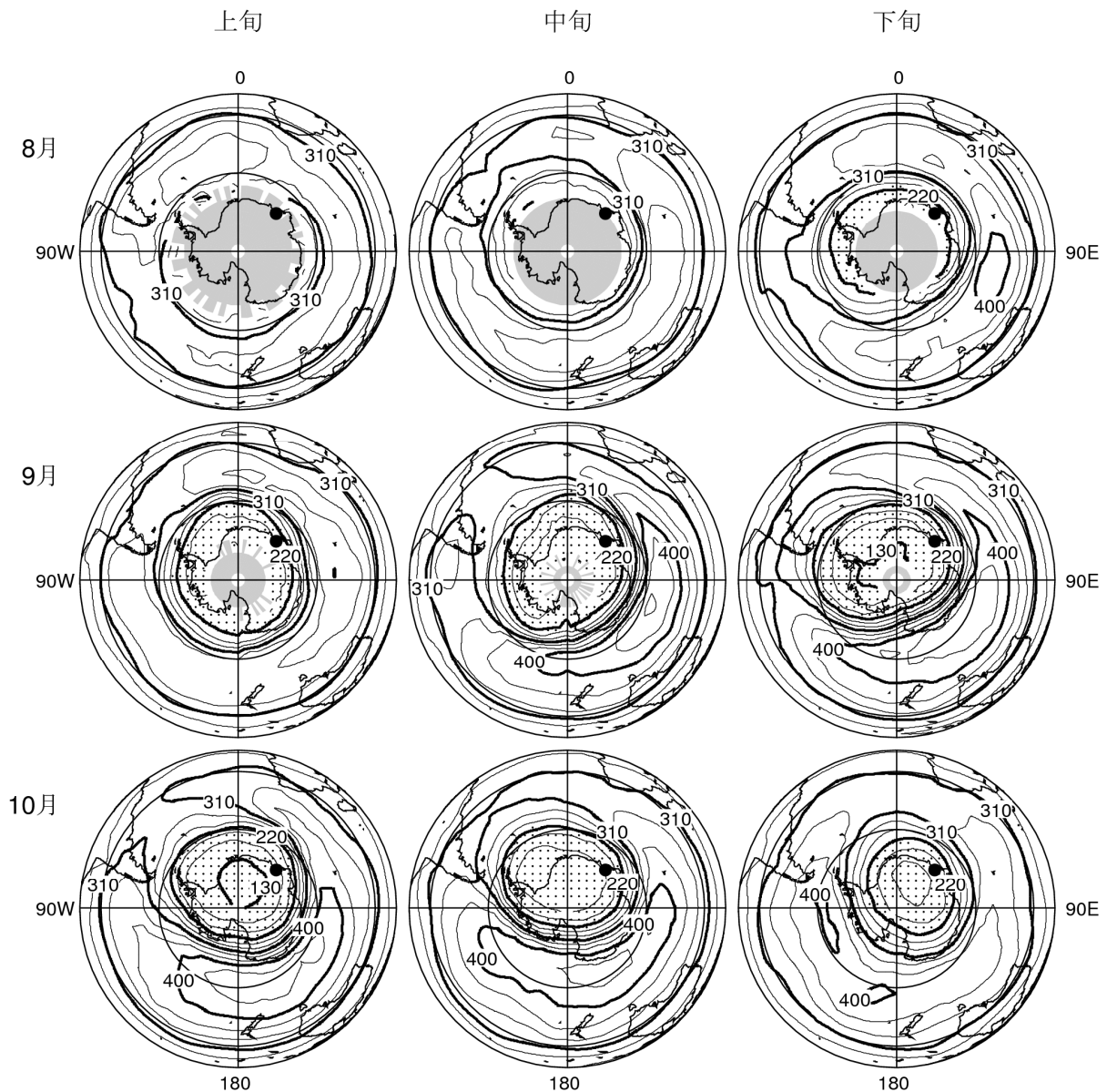


資料2：南極各国基地におけるオゾン全量の変化 (2007年)

昭和基地 (●印)、ハレー (△印)、ベルナドスキ/ファラデイ (+印)、ロゼラ (□印) およびアライバルハイツ (○印) における2007年8～12月のオゾン全量観測値。ハレー、ベルナドスキ/ファラデイ、ロゼラの観測値はShanklin博士(英国南極研究所)提供。アライバルハイツの観測値はClarkson博士(ニュージーランド水・大気研究所)提供。オゾンホールを目安とする220 m atm-cmを破線で示した。

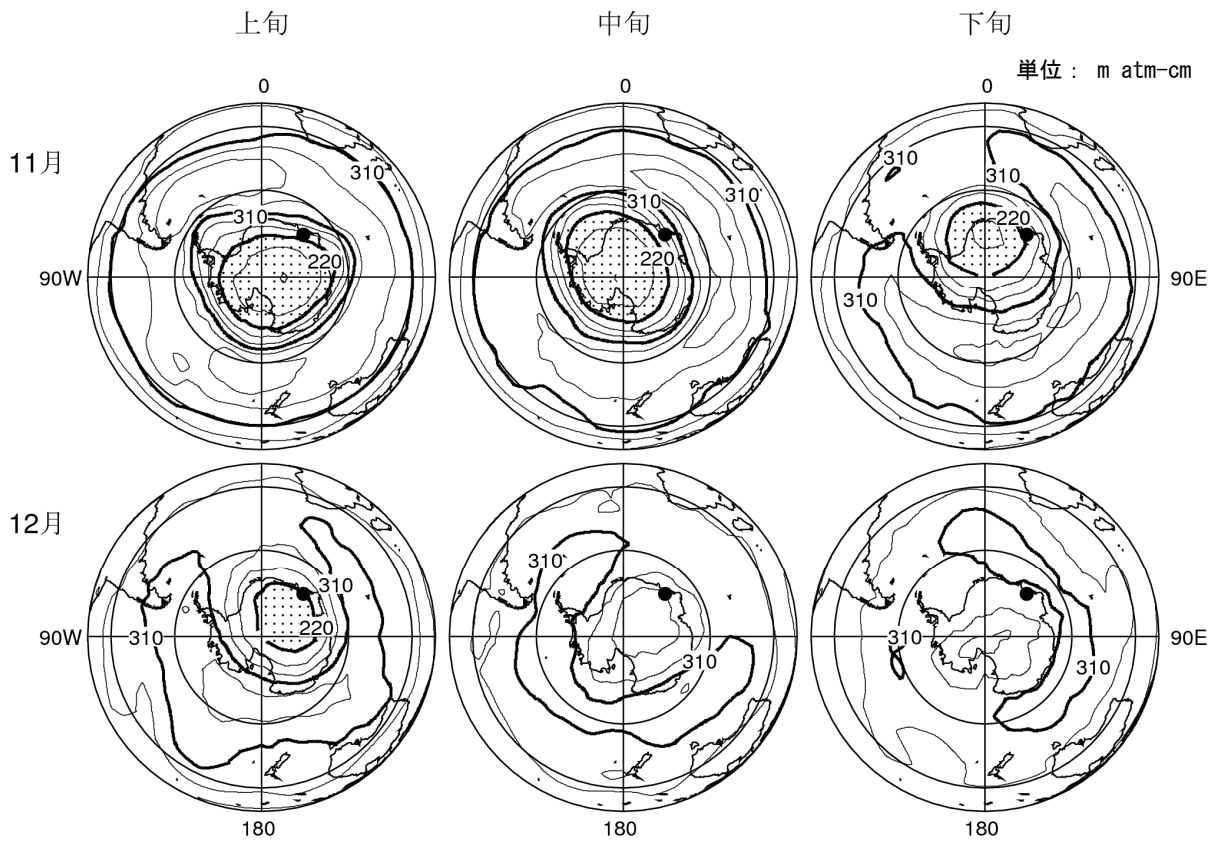
資料3 南半球旬平均オゾン全量分布図 (2007年8月~12月)

単位: m atm-cm



資料3(1) : 南半球旬平均オゾン全量分布図 (2007年8~10月)

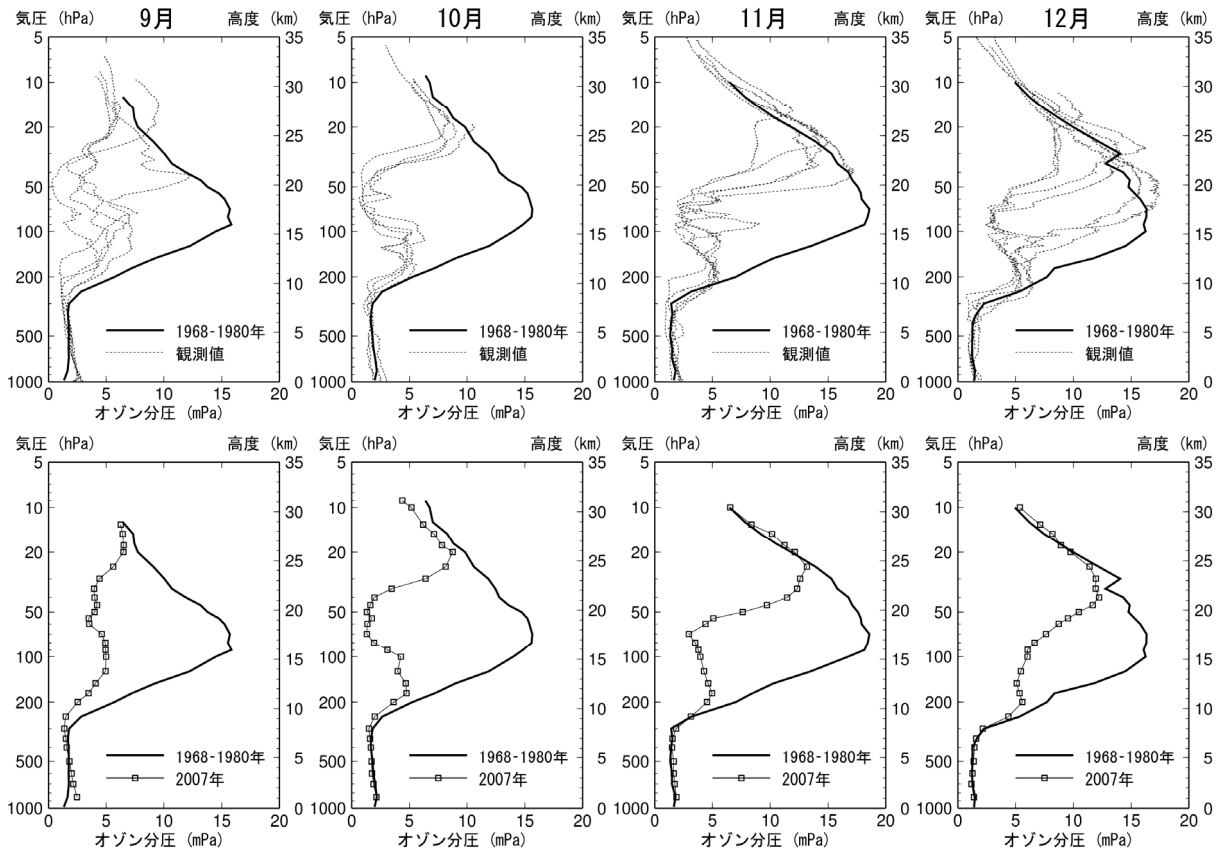
上段から8月、9月、10月の旬平均値。左列は上旬、中列は中旬、右列は下旬。点域は220 m atm-cm以下の領域。陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。等値線間隔は30m atm-cm。NASA提供のOMIデータをもとに気象庁で作成。なお、観測には太陽光を用いることから、極夜のため観測データが取得できない領域がありオゾンホールを目安となる220m atm-cmを下回る場合でも、図に表現されない場合がある。●印は南極昭和基地。



資料 3 (2) : 南半球旬平均オゾン全量分布図 (2007年11~12月)

上段から11月、12月の旬平均値。左列は上旬、中列は中旬、右列は下旬。点域は220m atm-cm以下の領域。等値線間隔は30m atm-cm。NASA提供のOMIデータをもとに気象庁で作成。●印は南極昭和基地。

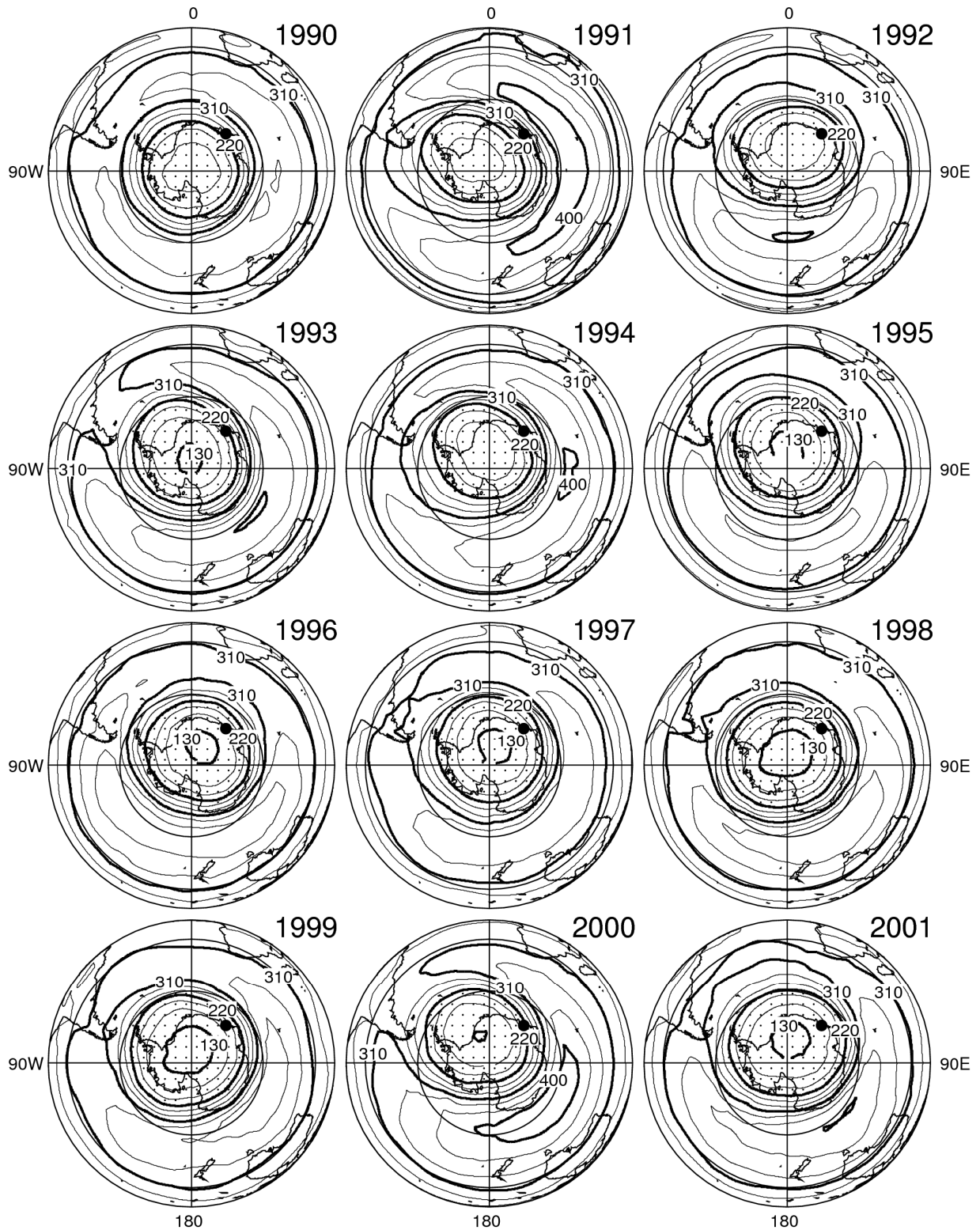
資料4 南極昭和基地における月別オゾン高度分布 (2007年9月~12月)



資料4：南極昭和基地におけるオゾン高度分布

2007年9~12月のオゾンゾンデ観測結果。上段：太実線はオゾンホールが出現する以前（1968~1980年）の平均オゾン高度分布。細実線は2007年の個々の観測結果。下段：太実線は上段に同じ。-□-は2007年の月平均オゾン高度分布。

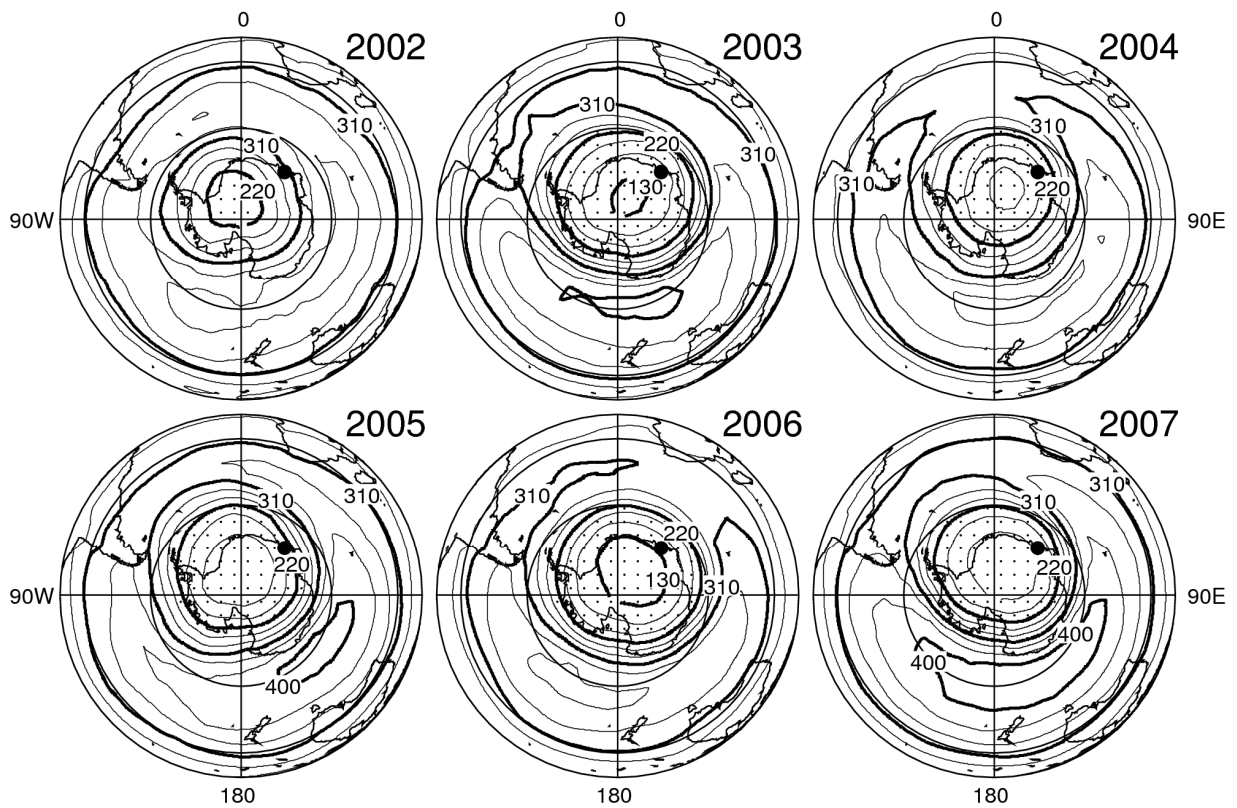
単位：m atm-cm



資料5(2)：10月の南半球月平均オゾン全量分布図(1990-2001年)

前ページから続く。1995年については、NOAA提供のSBUV/2のデータを用いて作成。●印は南極昭和基地。

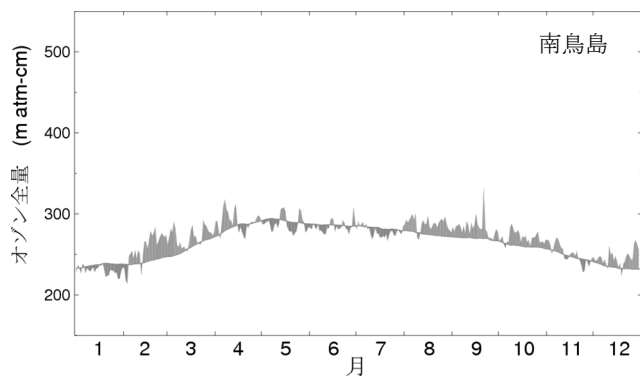
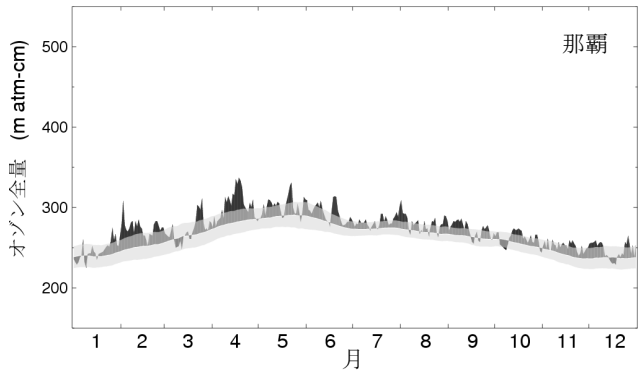
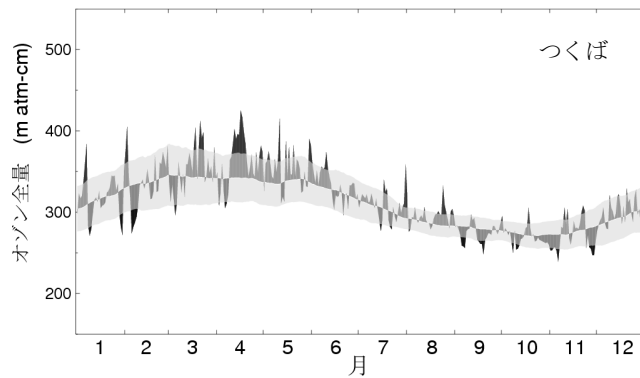
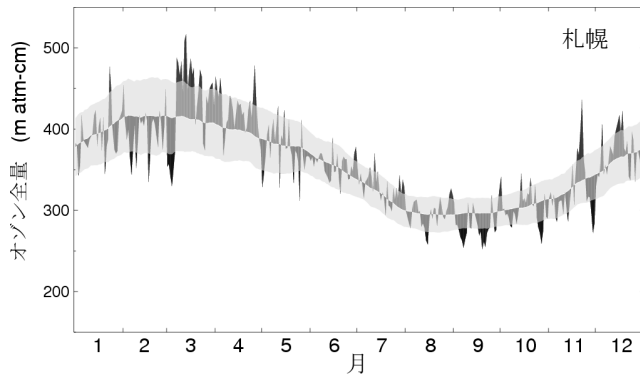
単位：m atm-cm



資料5(3)：10月の南半球月平均オゾン全量分布図(2002-2007年)

前ページから続く。2005年以降については、NASA提供のOMIデータを用いて作成。●印は南極昭和基地。

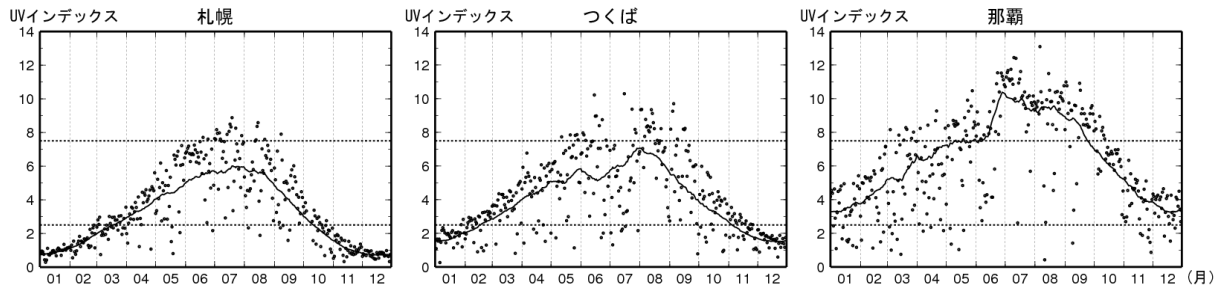
資料6 国内のオゾン全量日代表値（2007年）



資料6：国内のオゾン全量日代表値（2007年）

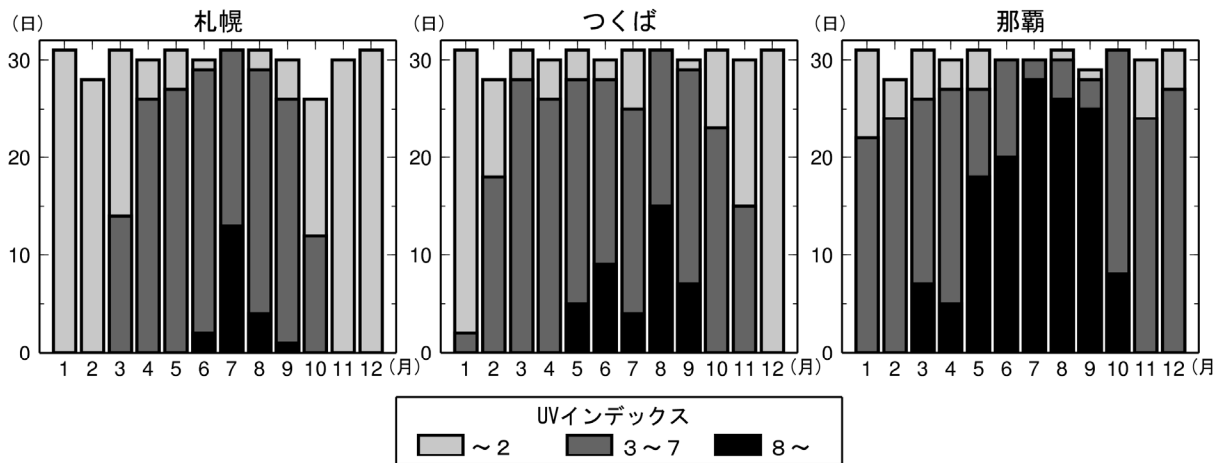
国内4地点におけるオゾン全量日代表値の2007年の推移。上から、札幌、つくば、那覇、南鳥島。参照値は、札幌とつくばは1971～2000年、那覇は1974～2000年、南鳥島は1994～2006年の平均値。陰影は同期間の標準偏差。オゾン層観測には直射光または天頂散乱光による観測種別があり、その日の観測のうち、より観測精度の高い種別の値を日代表値としている。なお、太陽直射光による観測が最も精度が高い。

資料7 国内の日最大UVインデックス (2007年)



資料7-1：国内の日最大UVインデックスの推移 (2007年)

●印は国内3地点（札幌、つくば、那覇）における日最大UVインデックスの推移。実線は日最大UVインデックスの参照値（1991（つくばは1990）～2006年）の15日移動平均値。点線は資料7-2で示すUVインデックスによる紫外線の強さの階級の区切り。



資料7-2：国内の日最大UVインデックスの階級別出現日数 (2007年)

国内3地点（札幌、つくば、那覇）における日最大UVインデックスの階級別出現日数を月別に示す。台風、障害等による欠測を除いている。